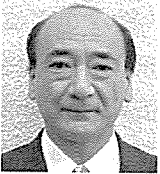


主任者の皆様，技術士資格は役に立ちます



この人：(社)日本技術士会 原子力・放射線部会 林 克己氏

[勤務先：(株)日立製作所 原子力事業統括本部 放射線管理センター]

この人，こんな所

インタビュー担当：放射線取扱主任者部会広報委員会
上叢義朋（理化学研究所）

「技術士」とは、国が、高度な専門性と応用能力を備えていると認めた人に与える称号です。主任者部会にもっとも関係が深い、原子力・放射線部門の初年度技術士であり、同部会長として活躍しておられる林克己氏に話を伺いました。

上叢：残念ながら普段の生活では“技術士”さんという方にはなじみがないのですが……。

林：“技術士法”に基づいて行われる国家試験に合格し登録した人に与える名称独占資格です。建設，機械，電気電子，情報，応用理学，原子力・放射線など21の技術部門があります。皆さんが耳にすることがまれなのは，昭和33年から今までの52年間で累計登録者が6万数千人しかいないこと，その中でも建設部門以外は人数が少ないからだと思えます。

技術士の所属は，一般企業に8割，官公庁や地方自治体等に1割であり，自営の方が1割です。先ほど名称独占資格と言いましたが，国土交通省等では職業資格的に活用していて公共工事の受注などには必須の資格になっていますので，建設部門は多くの方が受験されています。また，技術士事務所を開設して，計画，設計，調査，各種コンサルタントなど技術士業務を実

施している方もいらっしゃいます。

上叢：技術士制度はずいぶん前からあったのですね。

林：戦後復興の支援に来ていた米国の優秀な土木技師が資格を持っていたこともあり，昭和23年に米国に国の調査団を送って Professional Engineer (PE) 制度を調べたのが始まりで，技術士法は昭和32年に制定されました。当初は建設など16部門でしたが，その後，社会要請に応じて技術部門の新設や統合を重ね現在21部門です。技術士法は何度か改正されていますが，平成12年の改正では“公益確保の責務”“資質向上の責務”が明文化され，また資格の国際的整合性の観点から試験制度も少し変わってきました。

上叢：林さんが部会長を務めておられるのは“原子力・放射線部門”ということですが，どのような位置づけなのでしょう。

林：原子力・放射線部門が一番新しくできた部門で，平成16年に設置されました。今まで原子力の部門がなかったのは，世界有数の大企業である電力会社やメーカーが関わり，また国による規制が厳格に行われているため資格を作る必要がないと考えられていたのではないかと考えています。

しかし，原子力ではデータ改ざんなどの不祥事をきっかけにして「国や組織としての安全性

主任者 コーナー

等の担保にあわせて、技術者個人が意識や技術を常に向上させていく仕組みが必要である（部門設置答申より）」という認識からこの部門が設置されました。日本原子力学会から文部科学省に部門設置要望書を提出し、日本保健物理学会、原子力産業協会、電気事業連合会、研究機関、メーカーからも要望意見が提出されてから2年弱で告示改正という異例の早さは、制度に対する期待の表れだと思います。また、平成12年の技術士法改正後に初めてできた部門でもあり、“公益確保の責務（倫理）”“資質向上の責務（継続研鑽）”に期待されるところが大きいとも思っています。

上叢：下世話な質問で恐縮ですが、技術士になると、実入りは良くなるのでしょうか。

林：とても良い質問ですね(笑)

例えば建設部門などでは大きな公共工事の受注には必須ですので、建設コンサルタント会社やゼネコンにお勤めの方は昇格・昇給などのメリットがあるようです。原子力・放射線部会では合格者への講習のあとに懇談会(写真1)を毎年行っています。学位取得と同程度の報奨金を出している会社は多いですが、資格手当を出している会社は少ないようです。

合格者に話を聞くと、受験準備の過程で範囲



写真1 今年の合格者の懇談会

が広い原子力・放射線分野をしっかりと勉強し直したこと、また日頃狭い分野で考えがちだった仕事や新聞をにぎわす問題に対して“技術士としてどう考え行動するか”を訓練できたことが一番のメリットとして挙げる方が多いですね。実は技術士のネットワークは技術部門、業種を超えて広がっていますので、“誰に聞けば分かる”の付き合いも貴重なメリットです。

上叢：技術士になられたきっかけは何でしょうか。幾つかの部門の資格を取得していらっしゃるようですが。

林：海外勤務時に米国PE資格を知ったのがきっかけです。35歳のときに受験し、最初に応用理学部門を取得しました。当時、放射線に少し近い部門はこれだけでしたから。その後、プロジェクトマネジメント資格として新設された総合技術監理部門を取得し、最後に、新設された原子力・放射線部門を取得しました。

今は多国間で相互承認されている技術者資格としてAPECエンジニアやEMF国際エンジニアがあり、日本では技術士と一級建築士だけがこれらを取得できます。私も米国PEは取得せず、APECエンジニア3部門とEMF国際エンジニアを取得しました。

上叢：では、どうすれば技術士になれますか。勉強の方法なども含めて教えていただけるとありがたいです。

林：大学卒業程度の問題が出る第1次試験を受けることからスタートします。6月に受験申込、10月に試験があります。ここ6年間の平均合格率は全部門平均では40%ですが、原子力・放射線部門では81%と高いです。理科系の大学卒業生や放射線取扱主任者(第1種)などの資格保持者は試験の一部が免除されます。また、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定コースを卒業された方は第1次試験が免除されます。

第2次試験を受けるには第1次試験合格後通算4年の業務経験が必要です。これにかかわらず、合格前も含めて通算7年の業務経験がある方は第1次試験合格の次の年に第2次試験を受験できます。4月に受験申込、8月に筆記試験、12月～翌年1月に口頭試験があります。ここ6年間の平均合格率は全部門平均では17%ですが、原子力・放射線部門では35%と高いです。日本原子力学会のホームページには試験問題や参考書などの情報が掲載されています。合格率は年々下がる傾向ですので、是非早めに試験を受けてください。

上叢：技術士の将来について、抱負など伺えますか。

林：原子力・放射線部門の技術士制度の活用の方は部門設置答申に書かれていますし、部会でも多方面に具体的な提案をしています。今後は原子力法制の見直しの中で技術士資格の活躍場面も増えてくると思いますし、放射線の分野もこれに続くでしょう。この部門の技術士は343名だけですので、活用が本格的に始まることを考えると、もっと多くの方、特に主任者の方に受験していただきたいです。

上叢：話は変わりますが、趣味や、お国自慢をお聞かせください。

林：趣味と言えるかどうか分かりませんが、二輪は結構長かったかもしれません。一時期は5～6台を使い分けていた時もあり、つくばサーキットでのクラシックバイクレースにCB92浅間仕様で数年挑戦しましたが6位止まりでした。そのうち、体力と動体視力の衰えに3輪バギーとか4駆とかどんどん容易な方向に流れ、大型、大特、けん引まで全部動かしますが、結局今は普通の温泉好きおじさんです。温泉は、やはり東北地方に行くことが多いです。

私の住んでいる日立市には国民宿舎“鵜の

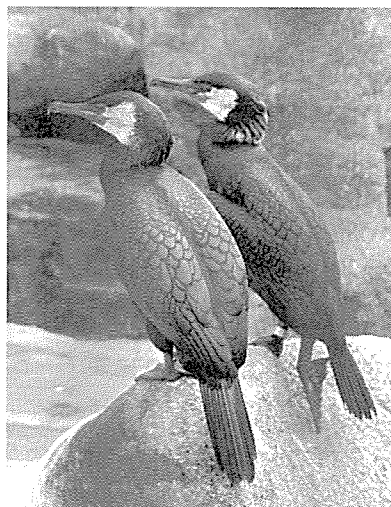


写真2 鵜の岬の海鵜



写真3 鵜捕獲場は崖裏側中腹

岬”があり、21年間連続で宿泊率が第1位で予約を取るのは大変です。深く掘った温泉ですが日帰り入浴施設もあって人気です。そういえば、長良川など全国の鵜飼に使う海鵜（写真2）は、唯一許可されたこの地で捕獲されているんですよ。崖の途中（写真3）に作った鳥屋の前におとりの鵜を置いて捕まえるらしいです。時期によっては捕獲場の見学もできます。東京からは日帰りできますし、隣接したきれいな海水浴場もありますので、是非おいでください。